

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間 (最終))

蒲刈中学校区 校番31 学校名 呉市立蒲刈小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	学んだことを実際の社会や生活で生きて働かせ、未知の状況にも対応できる児童生徒の育成	知識・技能の確実な定着	□期末テスト:88% ◎スタンブラー形式で漢字ドリル全範囲を網羅するような反復練習が効果的だった。 ▲習った漢字を日常生活で使おうとしなかったり、漢字ドリルに出てこない語句については書けなかった。 □読書の取組:91% ◎空き時間に読書をする習慣が付き、読書を楽しむ児童が多い。 ▲読書貯金記入の声掛けをこまめに行ったが、依然として記入忘れの児童がいた。 □50メートル走の記録:87% ◎体育の授業において、走る活動を多く取り入れたり、朝会などで「くれチャレンジマッチスタジアム」に挑戦したりしたことがよかった。 ▲取り組んだにもかかわらず、目標値の90%には達していない。今年は夏から秋にかけて暑い日がかかなり多く、外遊びをする時間が少なかった。 □発表の場の設定・授業での説明する場の設定:108% ◎相手意識を念頭においた取組を継続した結果による。 学習リーダーを中心とした対話的な学びが定着していった。 □思考力・判断力・表現力テスト:国語87% 算数82.5% ◎共通点・相違点を考えながら、友たちの意見を聞くことができるようになった。 ▲なぜそうだったを説明する場面では、教科固有の用語を使っていない。	・ドリルにない語句について問題づくり→国語辞典や「こどもかんじてん」の活用。 ・児童が意欲的に取り組めるよう、学年の実態に応じて工夫した反復練習。 ・放課後学習に、学年の課題に合わせた課題を精選する。 ・児童に読書貯金への記録を促す声掛けや、読書の時間を確実に確保するなど、意識して取り組んでいく。 ・特定の児童が読書貯金を達成できていないので、教職員と一緒に読書貯金への記入したり、まとまったページをシールを貼ったりするなど、個に応じた手立てを検討する。(R7度に向け、指標を見直しを図る。 ・引き続き、休憩時間の外遊びを奨励したり、授業の最初に走る活動を取り入れたりする取組を継続していく。 ・引き続き、「相手意識」を念頭に置きながら表現・発表をさせ、話し合う時のポイントを児童・教職員で共有する。 ・考えを説明する時には、根拠を基に算数的用語やキーワードを使って説明させていく。 ・教師の意図的切り返し発問の場面を設ける。 ・自分の考えを最後まで言い切らせる(教師が待つ)。 ・家庭と連携を密にし、児童の課題を共有し、解決に向けて取り組んでいく。
***	学んだことを実際の社会や生活で生きて働かせ、未知の状況にも対応できる児童生徒の育成	貴 自己表現できる力の育成 思考力・判断力・表現力の育成	□「自分にはよいところがある」と回答した児童:92% ◎学級単位または学校全体で、おたがいのよいところに目を向けあう活動を計画的に展開することができた。 ▲様々な教職員からよいところを認めてもらっていても自分自身を肯定的に評価しようしない児童の背景をさぐり、声掛け等を適宜適切に行っていく必要がある。 □「災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している」と回答した児童:100% ◎避難訓練や防災教育を計画的に実施することができた。 ▲児童の発達段階によっては理解が難しい分野もあるため、個別のフォローアップが必要不可欠である。 □「将来に向けての夢や目標がある」と回答した児童:100% ◎地域との交流活動、地域の施設利用者との交流、美術館等の施設見学、地域行事への参加など、学校外での体験活動の機会を充実させることができた。 □「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができる」と回答した児童:96% ◎「社会に開かれた教育課程」を計画的に実施することができた。生活科や総合的な学習の時間を中心に、児童は「地域貢献」について自分事として考え、思いを形にするよう取り組むことができた。	・児童同士のカード交流の取組を継続させ、自己肯定感の育成につなげる。教員からもカードを書いて児童の行動などを価値づけすることで、さらなる自己肯定感の育成につなげる。 ・今年度の計画と同様に避難訓練や防災教育を計画的に実施していく。 ・「未来を拓く100の出会い」の取組は形骸化しているので見直しを図り、現在実施している左記のような活動を体系化し引き継いでいく。 ・「社会に開かれた教育課程」について本校の取組を整理し、計画的に実施できるよう適切に引き継いでいく。
*	貴 教職員の意欲と能力を発揮できる教育環境づくり	児童と向き合う時間の確保 長時間勤務の軽減	アンケートで「日々の業務の中で充実感を得られていると感じる」と答えた教職員の割合:100% ◎教職員アンケート調査結果では、「日々の業務の中で充実感を得られていると感じる」と答えた教職員の肯定的評価の割合は、「100%」であった。この結果は、「自分の取り組みたいことを最優先に行わせた」ことや、「日々、時間をとって細かい打合せを積み重ねながら業務等に従事させた」ことが結果として現れているものと分析している。 時間外勤務が月45時間を超えない教職員の割合:100% ◎教職員アンケート調査結果では、「時間外勤務が月45時間を超えない教職員の割合」は、現段階において、「100%」であった。これは、「管理職がリーダーシップをとり、何でも言える環境を整えてきたこと」「教職員のアイデアを積極的に取り入れたり、職員が仕事に集中できるよう、日課表の時程を変えたこと」が影響しているものと分析している。	次年度は、現在取り組んでいる業務内容が本当に必要なのか、今年度末に検討し、「やりがいのある職場づくり」を進めていきたい。 ただ、「時間外が減った。良かった。目標を達成できた。」という安易な評価は、管理職として避けなければならないと考えている。経営者として管理職として、何ができるか、職員と熱く議論し、新しいことにチャレンジしていきたい。